

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000012	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	有限会社 ケアーメディカルことり		
事業所名	グループホーム ことりの森		
所在地	(〒 245-0051) 神奈川県横浜市戸塚区名瀬町613-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果 市町村受理日	令和4年11月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	http://gh-kotorinomori.com/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎月行っている季節感のある行事。利用者・職員が準備段階より熱心に取り組んでいる。
・毎月作成し、御家族にお送りしている『ことりの森たより』は行事を中心に利用者の皆様のご様子を写真入りでお伝えしている。
・年に4～5回は車に乗って様々な場所へ外出。ホームが茅ヶ崎市に所持している『ことり農園』は定番の外出先となり、季節の野菜収穫を利用者皆が楽しみにしている。
・月1回医師の往診があり、体調をくずしたときは医師と連絡を取り合える関係を確保している。また、定期的な訪問看護師によるバイタルチェックを実施。
・職員離職がほとんど無い為に、顔なじみの安心した雰囲気ができている。
・表札をはじめ、ほとんどの物が手作りで温かみのある空間づくりを心掛けている。
・リビングから見える自然の景色、絶やさずに植え続けている色とりどりの花。
・ホームページは、行事を行うたびに写真付きのブログを更新している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川県福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年10月13日	評価機関 評価決定日	令和4年10月27日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
◇充実した医療管理体制
月1回の内科医訪問診療、週1回の看護師健康管理を行っており、希望者には歯科医訪問診療がある。24時間医療連携体制があり、夜間を含めて利用者急変時には医師・看護師と連携して対応している。
◇多様な日常生活や年間行事の提供
利用者は、日常生活では体操、諸レクリエーションに参加し、法人所有の農園に出かけて野菜栽培・収穫をし、また、運動会・花火大会・ひな祭り等の季節の諸行事を楽しむなど、メリハリのある生活を楽しんでいる。これらの活動風景は写真満載の「ことりの森たより」として家族に毎月送り、利用者の元気な姿を知らせている。

【事業所が工夫している点】
◇内部研修体制
年間の職員内部研修計画があり、防災、虐待防止、身体拘束適正化、レクリエーション計画、個人情報保護、食中毒・感染症対応について学び、職員の意識向上・実務への反映に寄与している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームことりの森
ユニット名	かえで

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケアカンファレンスや日々の申送りの際など、話し合いの場では常に運営理念が念頭に置かれている。	・事業所理念「利用者の人権尊重、健康管理の充実、温かい家庭的な雰囲気」を事務室に掲示している。 ・職員は理念を念頭に日々のケアに反映すべく努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、散歩途中に近所の方々と挨拶を交わしている。また、毎年近所のグループホームのお祭りに招待され、参加させて頂いている。 ※新型コロナウイルスの影響にて交流は大分少なくなっている。	・コロナ禍以前は、祭り等の地域行事に参加するとともにボランティアを受け入れていたが、現在はコロナ対応でその機会はない。 ・散歩や法人の農園への外出の機会に、地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や見学の際に相談を随時受け入れられている。また運営推進会議書類のやり取りにて、地域の方々やご家族、地域包括支援センターの職員などと認知症ケアについての意見交換を行っており、事業所の支援方法などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響を受け、ホームでの開催はしばらく行えていないが、2か月に1回、書類での報告などにて意見交換を行い、ご家族や地域の方々、地域包括支援センターの職員の意見などがサービスの質の向上に繋がっている。	・2か月に1回、会議構成員にコロナウイルス対応として書類で現況報告をし、意見交換している。 ・利用者家族、地域包括支援センター職員、地域代表者の感想、希望、情報（コロナウイルス対応等）を得て、日々のサービスに反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。 また、地域包括支援センターに相談させて頂いたりしている。	・諸手続きや情報交換で区の職員と密に連携している。 ・地域包括支援センター職員と諸相談を通じて情報交換をし、コロナ対応等のアドバイスを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	横浜市へ身体拘束廃止取組について基準を順守し「基準型」として届出を行っており、算定要件を理解し、委員会や研修会を行っている。	・身体拘束防止マニュアルがあり、3か月ごとに身体拘束適正化委員会を開き、研修を行い、決定内容を全職員に周知している。 ・職員は日々のケアが身体拘束に当たらないことを意識し行動している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い（どのような事が虐待になるのか等）を職員全員で共有し、防止に努めている。	・高齢者虐待防止に関して内部研修を年1回開催し、虐待に相当する行為を全職員が理解している。 ・職員は日々のケアが虐待に当たらないことを意識し行動している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者はホーム全体で2名おられ、行政書士等と連絡を取り合いながら制度の理解を高め、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに理念を一番に記載し利用者のご家族などに説明を行っている。また、重要事項説明書もホーム玄関に掲示しており、見学・面接・入居時に十分に説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議にて、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。	・毎月の便りで利用者や事業所の状況を伝え、意見・相談を随時受け入れる体制にしている。 ・コロナ禍で面会制限があり、利用者の近況を職員から直接聞けないとの家族意見が多く、面会時にその時間を積極的に設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスや毎日の申し送りで意見交換などを行ない、可能な限りその意見や提案を運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は日々の会話や申し送り等を通して職員意見を把握し、可能な提案を運営に反映している。 ・夏祭りや敬老会のときに神輿があつたら良いのではとの提案があり、段ボールで神輿を作った。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスにおいては全職員への指導・助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる環境作りを行っている。 個々の能力や実績に応じた給与水準を定めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の就業規則に従い、給与、労働時間を管理している。 ・シフト配置の際は個人の希望、ワークライフバランスを考慮している。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験豊富な者が多く認知症研修や相互研修、新人研修を多々行なってきた。様々な研修の中から個々の職員に応じた研修を受けてもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の内部研修計画に従い、必要な項目を学んでいる。(防災、虐待防止、身体拘束禁止、個人情報保護、食中毒感染症対策等) ・外部研修の機会を設け、令和3年度に職員1名が実務者研修を受けている。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス流行の状況をみながら外部研修会の参加にてネットワークづくりを行い、サービスの質向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、状況把握と共に何でも相談できる職員の存在を把握してもらい、安心感を持って頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、様々な相談を伺い、安心し、納得した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に他のサービスの利用も視野に含めて面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事やレク、季節に応じた行事やその準備を職員と入居者が一緒に行い、同じ思いや目標、感動や達成感を持つ事で、生活を共にする家族の様な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の開催時に、ご家族に協力して頂いたり、受診の付添いや個々の必要物品の購入なども可能な限り協力して頂く関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に來られ、外食や買い物へ外出、外泊されている。 ※新型コロナウイルスの影響にて現在は時間などの制限を設けて面会などを実施中。	<ul style="list-style-type: none"> ・知人、友人との手紙のやり取りや電話の取次ぎを支援している。現在はコロナウイルス対応で面会は出来ない。 ・馴染みの場所(買い物、他)へはコロナ対応の制限範囲内で行けるように支援をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れる様な環境を保てるよう常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮する競技などを行なったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、面会（転居や入院の際）や、ご家族などへ電話連絡にて様子を伺っており、必要があればフォロー出来る準備などはある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見などを傾聴し、日常生活の中で出来ることをカンファレンスにて検討し対策を行っている。認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めて対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメントで、利用者の履歴や生活歴を把握し、入居後の日常会話や家族の情報を基に適切な対応に努めている。 ・会話が困難な利用者の場合は、仕草、表情、声の調子等から思いを察し声をかけて確認している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に生活歴や生活環境の情報収集を行い、アセスメント表を作成し、ケアに役立てている。日常生活の中での気付きや問題点などがあれば要因解明の一つの手段として生活歴などのアセスメントをとり直して対応を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りや1回／月のケアカンファレンスにて現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員の意見や往診Drの意見を盛り込んだケアプランをご家族や本人に確認して頂き、意見や要望、アイデアを取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	・入居時のアセスメント、家族や利用者の意見を基に3か月、6か月の目標、ケア内容を定めている。 ・日々の申し送りや毎月のケアカンファレンスで計画に対する評価を全職員で確認し、次期計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯の時間ごとにケアの実践・結果、気づきなどを個別に記録し、申送り等にて職員間で情報の共有を行っており、カンファレンスに反映させ介護計画作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代表者が職員と同様に状況を把握している為、本人や家族の、その時々々のニーズへは速やかで柔軟な対応を行っており、支援やサービス提供に反映できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際など地域包括支援センターの職員や地域住民との交流にて地域資源の把握に努め、入居者のQOL向上に役立てている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月の往診、1回/2週間の処方、検査も定期的に行ない、常に医師との電話相談も出来る。希望があれば馴染みのかかりつけ医への受診も対応している。	・訪問診療(内科医月1回、歯科医適時)と看護師による健康管理体制がある。 ・馴染みのかかりつけ医を継続する利用者がある。緊急時は職員が付添い支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4回/月の看護師訪問の際に情報伝達や相談を行っている。また、代表者が看護師である為、24時間オンコール体制で緊急時は夜間でも相談することができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から医師との話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期にあわせて本人や家族、往診医師や看護師等と話し合いを行い、事業所で出来ること十分に説明し、納得を得た上で支援の方針を決めている。	・入居時に本人と家族に重度化した場合の事業所の対応方針を説明している。 ・重度化した場合は、医師、家族、事業所間で密に連携し、適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や月1回のカンファレンス内での内部研修、日々の申し送りの中で必要に応じて指導や訓練を行い、実践力を職員全員に身につけてもらっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練は定期的に行い、方法などは全職員が身につけている。また、屋外に避難が必要な際は地域住民の協力が得られる体制も整っているが、ホームへは様々な備蓄が十分にある為、若干名であれば近隣住民の避難受け入れも可能である。	・防災マニュアルがある。内部研修、夜間想定を含めた年2回の避難訓練を通じて防災対応が出来ている。 ・非常時の飲料水・食料の備蓄1週間、防災備品をリスト管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご入居者にあった言葉遣いを心がけ、職員全員が同じ様に接するようしている。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのコミュニケーションの取り方や意思疎通について把握し、常に本人が思いを表したり自己決定出来る環境作りを心掛けている。 言葉遣いや感謝の言葉かけについて全職員が同じ対応ができるよう内部研修で確認している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に個々の入居者が思いを表したり自己決定出来る環境作りを心掛けている。個人の誕生日には希望を聞き入れ、外食や食事メニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めて頂くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常から一人ひとりのペースを大切にするケアを実践している。その日の過ごし方に関しては強制はせず、提案や促す対応を行っているが、希望があれば、それに沿える様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1～2回の美容師の訪問があり希望にそったカットやヘアカラーを行なっている。入居者個々の担当職員が本人の好みに合った衣類を購入したり、ご家族に購入をお願いしたりしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節に合った味付けで食事を提供し、食事中のゆったりした時間や会話を大切にする様に心掛けている。食後の片付けは当番制を設けているが、皆が率先して行って下さり、その際の会話も楽しまれている。	<ul style="list-style-type: none"> 食事は業者委託の献立と食材を使い、職員が手作りをしている。利用者は食後の片付けを当番制で率先して行っている。 農園や公園等への外出時に弁当、おやつ、飲み物を持参し、屋外での食事を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし、必要であれば水分摂取チェック表を使用して状態把握に努めている。また、個々の心身の状態に合わせて栄養バランスの調整を補助食品などにて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りの中、義歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等をなるべく、ご自身で出来るように支援している。義歯は夜間帯に預かり消毒をおこなっている。又午前・午後に関らずつイソジンうがいを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべく個々の排泄タイミングにあった介助を心がけている。必要に応じてポータブルトイレを使用して頂き、失禁を減らす対応を行っているが、失敗や失禁があってもご本人が悲観的にならないように配慮している。	・排泄チェック表で一人ひとりの排泄の自立状況を確認している。トイレでの排泄を基本と考え、間隔、タイミング等個々に支援している。その結果、便失禁がほぼなくなり、トイレでの排便が多くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や階段リハビリ・足踏み運動、前屈運動などで身体を動かして頂きながら、水分や食物繊維の提供及び摂取を心がけている。また、個々の状態にあわせて下剤服用の指示を往診医師から受けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴で1人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けた見守りを行っている。浴室の壁には富士山の絵を貼っており、様々な入浴剤にて楽しんで頂いている。また、季節にあわせて菖蒲湯やゆず湯なども準備している。	・週2回の入浴を基本とし湯加減は本人の好みに応じ調節している。 ・利用者は、浴室内の富士山の絵や入浴剤の色と香り、職員との会話を楽しみながら入浴している。季節の菖蒲湯、ゆず湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中でメリハリをつけ、外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付けて頂くと共に、個々の居室の環境を整え、全入居者が夜間は良眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理は看護師が行っており、入居者の名前ごとに朝・昼・夕・眠前と分け、日にちも記入され、解かり易く管理している。薬の目的や副作用に関しては医師や看護師の指導の下、十分理解し状態変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、ご本人のしたい事や出来る事には参加して頂いている。また、お手伝いなどでも役割を持ち、張り合いのある時間を過ごして頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩を行なう様にし、四季の変化を体感して頂いている。また可能な限り近隣の行事や催しに積極的に参加するように心がけている。茅ヶ崎にある「ことり農園」へは定期的に外出し、野菜の収穫やピクニックも楽しんで頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は散歩やウッドデッキ・テラスで外気浴をしている。 ・コロナ禍が続いているが、花見、大船フラワーセンター等ドライブを兼ねて出かけている。運営法人所有の農園に出かけ、ピクニック気分を味わい、収穫を楽しんでいる。 	・体調維持と気分転換を目的として、散歩、外気浴、事業所内の体操や歩行を今後も継続することが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があり、管理が可能なご入居者であれば、個人でお金を所持して頂いている。また、外出の際などはお預かり金からおみやげに、ご自分で選ばれたものを購入して頂いたりもしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りに関してはご本人の希望に沿って適切に援助を行っている。電話の取次は随時行っているが、ご本人からの電話に関してはご本人や相手先の状況などを十分に考慮した上で対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表札もなるべく手作りで心地良い色合いの物を選び、調度品は明るく温かみのある物を揃えている。ほぼ毎月、その季節や行事に合った壁飾りなどを入居者と共に作製し、飾り付けも一緒に行い、居心地良く過ごせる空間づくりを心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続いており、清掃・消毒・換気等、従来以上に徹底している。 ・共用空間は職員の手作り品を多く飾り、居心地の良い空間づくりをしている。利用者と職員が合作した季節や行事の作品も展示している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアやリビングが個々の利用者にとって居心地の良い場所になるように、テーブルやソファを各所に設置し、日ごろから配慮に努めており、皆様思い思いに毎日を過ごして頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない、協力して頂きながら居心地の良い部屋になる様に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の備え付けの設備の外に、馴染みの家具や思い出深いものを持ち込んでいる。 ・家族と相談をし、本人の安全や動線に配慮しながら居室のレイアウトを工夫している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は完全バリアフリーで、生活スペースには手摺りが完備されており、活用して頂く様に援助している。空間内に転倒リスクに繋がるような物品を置かないように配慮し、安心安全に生活が送れるように努めている。		

事業所名	グループホームことりの森
ユニット名	もみじ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3, 利用者の1/3くらいの
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケアカンファレンスや日々の申送りの際など、話し合いの場では常に運営理念が念頭に置かれている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、散歩途中に近所の方々と挨拶を交わしている。また、毎年近所のグループホームのお祭りに招待され、参加させてもらっている。 ※新型コロナウイルスの影響にて交流は大分少なくなってしまうている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や見学の際に相談を随時受け入れている。また運営推進会議書類のやり取りにて、地域の方々やご家族、地域包括支援センターの職員などと認知症ケアについての意見交換を行っており、事業所の支援方法などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響を受け、ホームでの開催はしばらく行えていないが、2ヶ月に1回、書類での報告などにて意見交換を行い、ご家族や地域の方々、地域包括支援センターの職員の意見などがサービスの質の向上に繋がっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の受け入れ相談も行なっている。 また、地域包括支援センターに相談させて頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	横浜市へ身体拘束廃止取組について基準を順守し「基準型」として届出を行っており、算定要件を理解し、委員会や研修会を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファレンスで虐待に対しての話し合い（どのような事が虐待になるのか等）を職員全員で共有し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者はホーム全体で2名おられ、行政書士等と連絡を取り合いながら制度の理解を高め、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットに理念を一番に記載し利用者のご家族などに説明を行っている。また、重要事項説明書もホーム玄関に掲示しており、見学・面接・入居時に十分に説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議にて、ご家族・地域の方々より意見をいただき反映させている。また、相談を随時受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスや毎日の申し送りで意見交換などを行ない、可能な限りその意見や提案を運営に反映させている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスにおいては全職員への指導・助言を行ない、日常の業務の中では個々の職員に対し状況に応じた声かけを行ない前向きに勤務できる環境作りを行っている。 個々の能力や実績に応じた給与水準を定めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験豊富な者が多く認知症研修や相互研修、新人研修を多々行なってきた。 様々な研修の中から個々の職員に応じた研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス流行の状況をみながら外部研修会の参加にてネットワークづくりを行い、サービスの質向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、状況把握と共に何でも相談できる職員の存在を把握してもらい、安心感を持って頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず面談し、様々な相談を伺い、安心し、納得した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際に他のサービスの利用も視野に含めて面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事やレク、季節に応じた行事やその準備を職員と入居者が一緒に行い、同じ思いや目標、感動や達成感を持つ事で、生活を共にする家族の様な関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の開催時に、ご家族に協力して頂いたり、受診の付添いや個々の必要物品の購入なども可能な限り協力して頂く関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類が好きな時間に面会に來られ、外食や買い物へ外出、外泊されている。 ※新型コロナウイルスの影響にて現在は時間などの制限を設けて面会などを実施中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	多種多様なレクリエーションを考案し、お互いがコミュニケーションを図れる様な環境を保てるよう常に意識している。協力してひとつの物を作り上げたり、運動会でチームワークを発揮する競技などを行なったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、面会（転居や入院の際）や、ご家族などへ電話連絡にて様子を伺っており、必要があればフォロー出来る準備などはある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意見などを傾聴し、日常生活の中で出来ることをカンファレンスにて検討し対策を行っている。認知症のため、言葉と気持ちに違いがあり、行動や表情の観察を十分に行ない本人の意向を見極めて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に生活歴や生活環境の情報収集を行い、アセスメント表を作成し、ケアに役立てている。日常生活の中での気づきや問題点などがあれば要因解明の一つの手段として生活歴などのアセスメントをとり直して対応を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りや1回/月のケアカンファレンスにて現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員の意見や往診医師の意見を盛り込んだケアプランをご家族や本人に確認して頂き、意見や要望、アイデアを取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯・夜勤帯の時間ごとにケアの実践・結果、気づきなどを個別に記録し、申送り等にて職員間で情報の共有を行っており、カンファレンスに反映させ介護計画作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代表者が職員と同様に状況を把握している為、本人や家族の、その時々々のニーズへは速やかで柔軟な対応を行っており、支援やサービス提供に反映できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際など地域包括支援センターの職員や地域住民との交流にて地域資源の把握に努め、入居者のQOL向上に役立てている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月の往診、1回/2週間の処方、検査も定期的に行ない、常に医師との電話相談も出来る。希望があれば馴染みのかかりつけ医への受診も対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	4回/月の看護師訪問の際に情報伝達や相談を行っている。また、代表者が看護師である為、24時間オンコール体制で緊急時は夜間でも相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から医師との話し合いを行ない、家族の希望も聞き入れながら早期の退院に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期にあわせて本人や家族、往診医師や看護師等と話し合いを行い、事業所で出来ること十分に説明し、納得を得た上で支援の方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や月1回のカンファレンス内での内部研修、日々の申し送りの中で必要に応じて指導や訓練を行い、実践力を職員全員に身につけてもらっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・避難訓練は定期的に行い、方法などは全職員が身につけている。また、屋外に避難が必要な際は地域住民の協力が得られる体制も整っているが、ホームへは様々な備蓄が十分にある為、若干名であれば近隣住民の避難受け入れも可能である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご入居者にあつた言葉遣いを心がけ、職員全員が同じ様に接するようしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に個々の入居者が思いを表したり自己決定出来る環境作りを心掛けている。個人の誕生日には希望を聞き入れ、外食や食事メニューを決めている。レクリエーションに関しても、何をしたいかを決めて頂くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常から一人ひとりのペースを大切にするケアを実践している。その日の過ごし方に関しては強制はせず、提案や促す対応を行っているが、希望があれば、それに沿える様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1～2回の美容師の訪問があり希望にそつたカットやヘアカラーを行なっている。入居者個々の担当職員が本人の好みに合つた衣類を購入したり、ご家族に購入をお願いしたりしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節に合つた味付けで食事を提供し、食事時のゆったりした時間や会話を大切にする様に心掛けている。食後の片付けは当番制を設けているが、皆が率先して行って下さり、その際の会話も楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし、必要であれば水分摂取チェック表を使用して状態把握に努めている。また、個々の心身の状態に合わせて栄養バランスの調整を補助食品などにて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員の見守りの中、義歯の手入れ、自歯の磨き、うがい等をなるべく、ご自身で出来るように支援している。義歯は夜間帯に預かり消毒をおこなっている。又午前・午後に関らずつイソジンうがいを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべく個々の排泄タイミングにあった介助を心がけている。必要に応じてポータブルトイレを使用して頂き、失禁を減らす対応を行っているが、失敗や失禁があってもご本人が悲観的にならないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や階段リハビリ・足踏み運動、前屈運動などで身体を動かして頂きながら、水分や食物繊維の提供及び摂取を心がけている。また、個々の状態にあわせて下剤服用の指示を往診医師から受けている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴で1人ずつ浴室に入り、温度の調節や自立に向けた見守りを行っている。浴室の壁には富士山の絵を貼っており、様々な入浴剤にて楽しんで頂いている。また、季節にあわせて菖蒲湯やゆず湯なども準備している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の中でメリハリをつけ、外気浴・体操・散歩等にて体内時計を自然に身に付けて頂くと共に、個々の居室の環境を整え、全入居者が夜間は良眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理は看護師が行っており、入居者の名前ごとに朝・昼・夕・眠前と分け、日にちも記入され、解かり易く管理している。薬の目的や副作用に関しては医師や看護師の指導の下、十分理解し状態変化の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に適した役割を分担したり、意見を聴いて、ご本人のしたい事や出来る事には参加して頂いている。また、お手伝いなどでも役割を持ち、張り合いのある時間を過ごして頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩を行なう様にし、四季の変化を体感して頂いている。また可能な限り近隣の行事や催しに積極的に参加するように心がけている。茅ヶ崎にある「ことり農園」へは定期的に外出し、野菜の収穫やピクニックも楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があり、管理が可能なご入居者であれば、個人でお金を所持して頂いている。また、外出の際などはお預かり金からおみやげに、ご自分で選ばれたものを購入して頂いたりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りに関してはご本人の希望に沿って適切に援助を行っている。電話の取次は随時行っているが、ご本人からの電話に関してはご本人や相手先の状況などを十分に考慮した上で対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の表札もなるべく手作りで心地良い色合いの物を選び、調度品は明るく温かみのある物を揃えている。ほぼ毎月、その季節や行事に合った壁飾りなどを入居者と共に作製し、飾り付けも一緒に行い、居心地良く過ごせる空間づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアールビングが個々の利用者にとって居心地の良い場所になるように、テーブルやソファを各所に設置し、日ごろから配慮に努めており、皆様思い思いに毎日を過ごして頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居案内に記載し、ご家族にも説明を行ない、協力して頂きながら居心地の良い部屋になる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は完全バリアフリーで、生活スペースには手摺りが完備されており、活用して頂く様に援助している。空間内に転倒リスクに繋がるような物品を置かないように配慮し、安心安全に生活が送れるように努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ことりの森

作成日 令和4年10月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	・体調維持と気分転換を目的として、散歩、外気浴、事業所内の体操や歩行を今後も継続すること。	・前年、今年度と同様に継続及び率先して外出の計画を立てたり、散歩や外気浴の機会を設け、入居者様の健康維持や気分転換に繋げて行く。	・毎月のカンファレンスの際などに、外出の企画や検討を欠かさずに行う。 ・職員個々はその日の入居者様の気分や天候などを考慮し、率先して散歩や外気浴を行える様に、教育や指導を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。